湘南鎌倉バースクリニック

16年開設に向け地鎮祭

一歩進んだお産のあり方を追求

特定医療法人沖縄徳洲会は10月23日、旧湘南鎌倉総合病院（神奈川県）の別館跡地に新設する「湘南鎌倉バースクリニック」の地鎮祭を開催した。2016年4月の竣工、同5月の開院を目指し、いよいよ建設工事の開始を迎えた。

建設地は神奈川県鎌倉市にある湘南モノレール「富士見町駅」から徒歩約5分に立地。地上4階、地下1階建てとし、病室は19床で、すべて個室。出産前後に訪れる妊婦さんの家族が一緒に宿泊できるスペースも設ける考えだ。

厳かな雰囲気のなか行われた地鎮祭

湘南鎌倉病院お産センターが扱う正常分娩（ぶんべん）・ローリスク分娩の機能を、同クリニックに移管する計画で、これまで以上に妊婦さんがリラックスした状態でお産に臨むことのできる施設にする。

陣痛を促進したり母乳の分泌を促したりする作用のあるオキシトシンというホルモンには、不安やストレスを軽減する効果があることが近年の研究でわかってきた。このオキシトシンの働きを高める環境やケア、妊婦さん向けのプログラムを整え、よりスムーズなお産の実践を目指す。一方で、ハイリスクの妊産婦さんはこれまでどおり湘南鎌倉病院が受け入れる。

地鎮祭には湘南鎌倉病院の塩野正喜院長、井上裕美副院長（産婦人科部長）、日下剛（くさか）・産婦人科部長、康明子・看護部長、青木豪志事務長ら徳洲会職員や、設計・施工関係者ら約20人が参加。冷たい雨が降るなか、厳かに神事を行った。

左から井上副院長、塩野院長、日下部長

塩野院長は「当院が進めているお産の夢の形の実現に向け、地鎮祭の日を迎えることができて嬉しく思います。日本のお産をリードする施設になることを期待しています」と喜びをあらわにした。

井上副院長は「湘南鎌倉病院で約20年間にわたり、私たち産科医と助産師は、産婦さんとご家族に満足してもらえる、心温まるお産、温かい家族形成につながるお産を追い求めてきました。厳粛な地鎮祭を通じて、私たちの夢でもある理想のお産の実現に向けて、勇気を与えられたように思いました」と語った。

湘南鎌倉バースクリニックの院長に就任予定の日下部長は「地鎮祭という節目を迎え、1人ひとりの妊産婦さんに合わせたお産の実践によって、地域に貢献していきたいという気持ちを新たにしました」と意気込みを見せた。

湘南鎌倉病院は現在、急性期医療に特化した病院を目指し、診療機能の強化・再編を推進。このため同院は急性期医療とは性質や時間軸の異なる機能の移転を進めており、バースクリニック新設はその一環でもある。同クリニックは同院と緊密に連携し、妊婦さんや胎児に異常があった場合、迅速に同院が引き継ぎ、母子の安全を最優先にする。

同院は井上副院長を中心に1990年代から、全国に先駆けて「フリースタイル分娩」や「根拠のない医療介入の廃止」などを実施。同クリニックではさらに一歩進んだお産に取り組む考えだ。